

人と猫が共生できる地域への小さな一歩

人と地域と行政をつなぐ 週刊マガジン

まち・ひと つながる



熊本市まちづくりセンター通信 vol.24

熊本市内各校区で、まちづくりに関わり、地域の活性化のために頑張っている人たちを紹介します。

熊

本市では熊本地震後、増加した空き家に野良猫が住み着いたり、飼い主の転居で飼いが野良猫になり、その後、繁殖して問題となっている地域があります。

中央区の竜之介動物病院では、そうした野良猫を殺処分せずにお済むよう、不妊手術（オスは去勢）を行い、もともといた場所に返す「TNR活動※」を年2回、ボランティア（寄生虫駆除代のみ実費）で実施しています。

秋津校区で民生委員児童委員を務める水本美代子さんも、その活動に賛同する一人です。

「秋津校区でも地震後に野良猫が増加しました。解決策を模索していた時にTNR活動のことを知り、1年かけて猫を餌付け。寄生虫駆除代を自治会費で負担し、動物病院に持ち込みました」と振り返る水本さん。それをきっかけに、自身も同院の活動にボランティアとして参加。手術の受け付けや、手術前後の猫の見守りなどを行っています。

手術後の猫は「地域猫」に 目印は耳先の切り込み

同

校区では、水本さんらが捕獲し不妊手術を行った猫を、「地域猫」として面倒をみます。週末になると家で動物を飼えない子どもなどが来て、



▲手術を担当する獣医師なども含め、ボランティアの中には県外からの参加者も多数います



▲捕獲され不妊手術を待つ野良猫たち



◀不妊手術を受け、「地域猫」となった秋津校区の猫

触れ合いを楽しむ姿も見られます。手術を受けた猫は、他の野良猫との区別がつけやすいよう、目印として耳先に逆三角形の切り込みが入れているのが特徴。こうした地域猫を世話する上で不可欠な餌代の負担やふん尿の処理などは、自治会など地域の有志で行っています。触れ合いを通じて、子どもたちが命の大切さを学ぶきっかけにもなるため、この「地域猫」活動の賛同者も少しずつ増えています。

※…「Trap(トラップ)」=捕獲器で野良猫を捕まえる、「Neuter(ニューター)」=不妊手術、「Return(リターン)」=元の生活場所に戻してやる、の頭文字を取った活動

取材協力/竜之介動物病院



秋津校区民生委員児童委員
水本 美代子さん(70)

「まち・ひと・つながる」の紙面への感想をはじめ、まちづくりに関するアイデア、相談など左記にお寄せください。

お問い合わせ
●熊本市地域政策課 ☎096(328)2031
(月～金曜・8:30～17:15)
chiikiseisaku@city.kumamoto.lg.jp